

丁抹公使通過期 でん まくこうし つうがくき 北

1

1

1

1

約十二月間
一三三三
一三三三
一三三六
一三六
一三、一七

二五八、五〇

東京債直取引
二十二月川津鎮興 日との比較
五分特
九六、七〇

大阪株式特電

和歌山	三〇〇	二十六日
京都府	二五〇	十月限
福岡市	一五〇	十一月限
新潟市	五〇	十二月限

九八六
 〇〇〇
 九八七
 〇〇〇
 大引
 〇三〇
 〇〇〇
 ●廿六日前場
 下關期

特電

先備三脚高車ありと摸擬し示しつゝ
あゝと叫ぶ白粉なし二十六日達は一
升に付五厘の札上を行き司日よ
り一毫白十三銭白十二銭半 鹽佐賣
し白な六割三十銭とせり

社に大興業の望を寄せ、
むけたる内地高の餘波を受けたるも
のなりといふ。

報

所
 氏六十度五分
 日中
 氏六十度四分
 氏十七度八分
 年五
 二十

日	生	六	月	十一	日
日	七	月	十二	日	十一
日	九	月	十三	日	十二
日	二	月	十四	日	十三
日	十	月	十五	日	十四
日	七	月	十六	日	十五
日	九	月	十七	日	十六
日	二	月	十八	日	十七
日	十	月	十九	日	十八
日	七	月	二十	日	十九
日	九	月	廿一	日	二十
日	二	月	廿二	日	廿一
日	十	月	廿三	日	廿二
日	七	月	廿四	日	廿三
日	九	月	廿五	日	廿四
日	二	月	廿六	日	廿五
日	十	月	廿七	日	廿六
日	七	月	廿八	日	廿七
日	九	月	廿九	日	廿八
日	二	月	三十	日	廿九
日	十	月	三十一	日	三十

魚の尾を
掉尾の太

估躍!! (京城協賛會)

川天一坊三席
 多助三席
 虎丸
 右三席は虎丸十八番中の十八番

大賣場所
一丁目
京城日報代理
振替京城三〇〇番電話六六〇

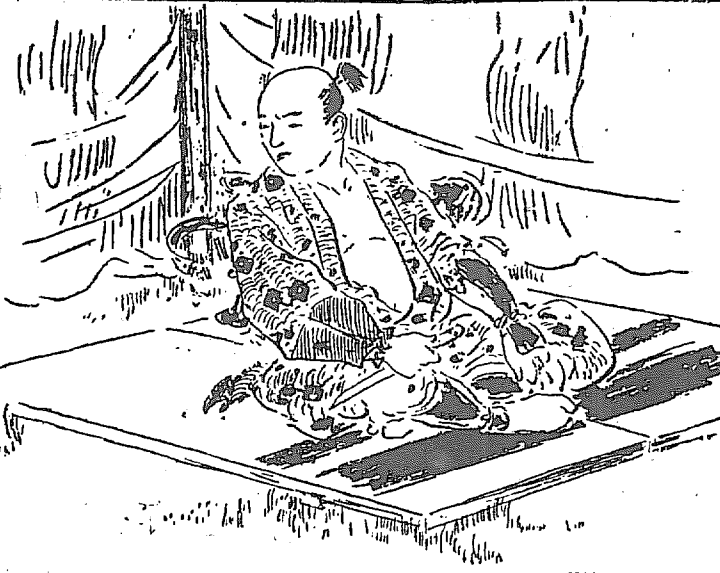
酒精直輸入
一手發賣元

鬼頭兼次郎商店

越後大評定

第二十五席 早川貞水口演

忠朝の討死
越後大評定の忠朝の討死。早川貞水口演。越後大評定の忠朝の討死。早川貞水口演。越後大評定の忠朝の討死。早川貞水口演。



仁川期米
仁川期米。仁川期米。仁川期米。仁川期米。仁川期米。仁川期米。仁川期米。仁川期米。仁川期米。仁川期米。

松岡旅館
松岡旅館。松岡旅館。松岡旅館。松岡旅館。松岡旅館。松岡旅館。松岡旅館。松岡旅館。松岡旅館。松岡旅館。

次郎
次郎。次郎。次郎。次郎。次郎。次郎。次郎。次郎。次郎。次郎。

十月二十八日九星
十月二十八日九星。十月二十八日九星。十月二十八日九星。十月二十八日九星。十月二十八日九星。十月二十八日九星。十月二十八日九星。十月二十八日九星。

ミツワ椿油
ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。

ミツワ椿油
ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。

ミツワ椿油
ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。ミツワ椿油。

三番香水
三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。

三番香水
三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。

三番香水
三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。

三番香水
三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。

三番香水
三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。

三番香水
三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。三番香水。

定價二十錢郵稅二錢
前金(四冊八十三錢)
郵稅共六錢二兩六十一錢

鳥上瀧田の九死女の實話

結婚の圖解申付吉蔵

縁組ミ不似合の縁組ミ久

無用ミ

本町

館文博

タノの家庭問題
タノの人……志賀重昂
の手に陥んさせし女の手紙
……連載小説……田口桐江

本店

影御遊塲造釐
塲工影御井

鈴木醫院跡

電 話 六 九 二 番

賣買取組
月銀
四石
九三二
番七四

出出
た た
十一月號
三二五
九三七
番七四
賣買取組
十月底
十一月底
八千四百石

(24)

筒井年峰畫

雪消 (九)

盛政は其いで杯を飲めた。
「茶四郎君ぞ到いたとあらば、我等
三人申を聽めねばならぬ。さらば御
進申すを、一禮して座を立つた。」
「能登の室到今天どあらば、加賀、
越中も六日には損ばう。七日には出
陣し心得召され」
「心得まいな」。先陣の約束、必ず忘
れさせられた。
「諄いわ」。勝家が突然とした聲を聴くと、盛
政が毅然とした聲を聴くと、盛
政が「氣果の爲に持病の永びきまするま
で、程無う本復と存じます。只折候に
惡しき病體、御權從に應せられぬの
を、只管無念がり居ります。よ上り
に御推察下し置かせられへ」
「父公御心底、昔より勝家能く存
居る。兎も角も後詰の願はうと存
申す」
「後詰、までもおざりますまい。御存



政は雀躍し、勇ま立つて退出した。引違へて入り來たつた孫四郎利長、若やかな武者振花たしく、設けの座に就いて式代する。之を視て勝家は略々かた色になつた。

「差到第一」といさる。遙かの路の早速の出馬、勝家親著に存する」

「心ばかりは逸りまいても、途中まだ雪氷の妨けおさづて、心ならずも遅延致しておざりましても、利長は戰艦に行軍の状況を述べて一番の差到を喜ぶのであつた。

「途中府中へ寄られたかな」

「仰の通り、病床心許なく、立寄るまいておざり申す」

「知らるゝ如く、物に依へぬ身分、されば、聊かにても怠る時は、早に出場と存じます。先づ小可を御手に加へられ、弱年者の引しめるべく願ひ申しまする」

禮あり儀ある利長の應酬には、家將ぞ感心して

「前出艦御父子の心入れ、近來頼しく存じ申す。貴殿が戰場の進退魚津表の機ににて、勝家能く存じざる。今次の軍功、今より見るやうに世にも嬉しげに稱賛するのである。利長は益々身を謙下つて、」

「城敷を展ふ御進者、幸ひに御

揮を被つて、先陣を許さるれば、身命を擔つて軍志を挫てたう存じます。そのあはれ錢重にも先陣の鎧を『仰厚意恣なう存する。先陣の鎧は佐久間玄蕃久強で申し請ふに依つて既に許しておざれば、今更にし方おざらぬ』

勝家の語には、其餘なきが表はれてゐた。利長も力なげに。

「餘人ならば兎に角、佐久間勝先陣とあるに、利長風靡の爭ふ餘地はおざらぬ。只今日早く着到仕つれば、やがて佐久間勝に譲るまいものを、これを先陣とせざるまい」と齒を切み腕を握つて、遙か天を睨む眼に、無念の光りが輝いてゐる。

勝家は當年の大千代が、神天の意氣を想ひ起して、此若武者の英氣の湛んだのを、流石に愛づる心が出た

「さう、さう。先手は馳せ加はつて佐久間殿と闘ひ進みます儀、許させられようや。」

判官は踴躍して命を弄した。勝家は愈々上機嫌になつて、

「遠路より早々の著到、降次の勞れも在はさるが、今日は上巳の節會、心ばかりの酒宴に罷す、先づ緩いで一献過させられ。」

勝家は直ちに酒肴を命じた。相傳は毛髮勝助家照、同富久右衛門照虎、中村文治衛、同富一露燕の面々、武勇の談を下物として、杯は絶えず雲手に廻つた。勳指のみうつて放笑する聲の絶間に、かき鳴らす箏笑の音、吹きさす玉笛の聲、遠音ゆかしく澄みわたるのに、樂聲の優し氣分が、遺憾なく味られた。

新刊書御案内		著者	定價
●戰に便して	著者	定	六〇
●安賀生活	法蘭士博士		一五〇
●三島傳	老于講義	中洲	一八五
●江戸時代史	論史地	史地	二四〇
●最新策	蜀法中	先生	三五〇
●受職者用作文範	乾安達	先生	四〇〇
●日本農業遺傳	論武	熊	七〇〇
●女人國	記亮氏	岳山	二〇〇
●同宿	力南	博士	二〇〇
●シュルレアリスム	ハル	獨語	七〇〇
●排詰新五萬句	伊達	新編	八〇〇
●獨脚金色夜叉	紅紫	山人	二〇〇
●獨脚	歐羅巴	加藤氏	二〇〇
●自然	集	菊池	二〇〇
●其を惹びて	大佳	飛鷹	八〇〇
●貧しき人	ドストイエフ	キイ	一八〇
●井上英和	大辭典	井上	特二二〇〇
●熟讀本位	英和辭典		特二〇〇〇
●作文本位	英和文法辭典	八	特一八〇〇

るためしに中集を氣人の都満



內 場 會 進 共
館 藝 演 會 贊 協 城 京

△十月廿七日より三十日迄▲
共進會の成功を祝し御名殘寄附興行として再び演藝館に現はるゝ天勝一座は今回は
お伽芝居を本位とし外に新物數番を加へ總て面目を一新す

新製 御園紙おしろい

肌膚の荒れる心配毫もなく、其上香り床しく白粉の附着よく、紙質は丈夫で一冊の中に淡紅色のも
あります、時節柄是非皆様の御使用を願ひます。

定價壹冊
金拾五錢

冊壹價定
錢五拾金



鋪本造製粉白園御
園蝶胡東伊
園公芝區市京東
元寶發品粧化園御
鋪本鹼石ワシミ
店商屋見丸

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戶、大阪行
小倉丸 十月 日後五時出帆

小倉	十一月四日午後十時出帆
〇門司、神戸、大阪行	
立神丸	十一月九日午後五時出帆
〇元山、清津、通羅行	
立神丸	十一月九日午後十時出帆
〇元山、西湖、津新田、坂津、清津行	
第三翠平丸	十一月十一日午後九時出帆
〇門司、宇治、神戸、大阪行	
第三翠平丸	十一月十二日午後六時出帆
〇佐須奈、磯原、壹岐、博多行	
天眞丸	十一月廿六日午後十時出帆
本船取扱店	大池川 漕船

[illegible]

水興丸	又係船隻長 北久米五里浦行	每月廿八回	元山發
嘉島丸	廿九回	十月三十日	釜山發
江陵丸	廿九回	每	釜山發
三浦丸	在釜山九島常行	十月廿七日	釜山發
長津丸	巨文島 蔚州島常行	每	釜山發
海州丸	釜山 蔚州島常行	每	釜山發
統制丸	蔚州島 蔚州島常行	每	釜山發
限天丸	蔚州島 蔚州島常行	每	釜山發
慶興丸	蔚州島 蔚州島常行	每	釜山發

公州	各津經由濱州府行	十月廿七日	木浦發
宗儒丸	臨州仙谷港經由 鎮南通行	十月廿九日	仁川發
紅原丸	芝罘 大連 靑島行	十月廿七日	仁川發

水丸	十月廿九日	仁川
州丸	十一月二日	仁川
各港		
由本		
施行		
州丸	每日午前	仁川
丸		

[illegible][illegible][illegible]

意江 ○橫濱船客に本線出帆統一時間開船
 ○迎可度
 ○印は一等客御断り△印は船客御断り
 川切符發賣所大阪商船會社支
 電話二番二二五五
 京城切符發賣所 内國通運會社支
 電話七八五